

第17回エコタウンえどがわ推進本部会議 要旨

開催日：令和3年2月9日(火) 書面開催

- 1 本部会議について
- 2 配布資料
- 3 報告事項
- 4 意見書

1 本部会議について

第17回エコタウンえどがわ推進本部会議は、令和3年2月9日(火曜日)に対面での会議を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、書面開催としました。

令和3年2月4日から配布資料を郵送にて送付、令和3年2月22日までに、本部員へ意見書の提出を求めました。

2 配布資料

- 資料1 エコタウンえどがわ推進本部員名簿
- 資料2 エコタウンえどがわ推進本部設置要綱
- 資料3 区の地球温暖化対策の取組
- 資料4 アンケート調査の結果について
- 資料5 安全で快適な環境に向けて
- 資料6 会議についてのご意見・ご感想
- 資料7 会議についてのご意見(資料6)に対する区の考え方
- 資料8 区施策に対するアドバイザーからのご意見

3 報告事項

- (1) 資料3「区の地球温暖化対策の取組」より、事務局から江戸川区の二酸化炭素排出量、エコタウンえどがわ推進計画の進捗、地球温暖化対策の推進、区の取組について報告。
- (2) 本部員を対象に会議前に事前アンケート調査を実施。アンケート内容として「地球温暖化の影響と私たちの身近な生活について」、「レジ袋の有料化について」などのご意見をいただいた。資料4「アンケート調査の結果について」よりその結果を報告。

4 意見書

- (1) 資料3「区の地球温暖化対策の取組」、資料4「アンケート調査の結果について」、その他「本部会議全体について」この3点に関して、顧問・本部員・アドバイザーよりご意見・ご感想をいただいた。(資料6)

- (2) 上記(1)でいただいたご意見については、事務局より回答。(資料7)

- (3) 江戸川区の「令和3年度当初予算案の編成について」(1, SDGsの推進(共生社会の実現)、2, 脱炭素への取組、3, デジタルトランスフォーメーションの推進)、及び「江戸川区気候変動適応センターについて」、東京電力パワーグリッド株式会社、東京ガス株式会社より、アドバイザーとしての知見から、ご意見・ご感想・ご助言をいただいた。(資料8)

1 近年、地球温暖化の影響と考えられる「大型台風や集中豪雨」などの風水害や気温上昇に伴う「熱中症」発生の増加などが起こっています。私たちの身近な生活に影響がでてきていますが、日々どのように感じていますか？

- ・熱中症やインフルエンザ、新型コロナウイルスは各自の責任で予防するほかない。台風や集中豪雨・地震等、自然災害は我々人間では防ぎようがないので一番の関心事である。
- ・1年間の台風では心底恐怖感を味わったが、それ以外では特段影響無いものの、心理的不安要素を感じる。
- ・海に囲まれた国である以上、自然災害とは切り離せないと思い、その対策には意識は持っているものの、報道される災害、現地の情報に目を向けると自助・共助・公助に大切さを感じている。
- ・地球温暖化は、私の子どもの頃の環境を思い出すと身にしみて実感している。未来の子どもたちへ美しい地球を残したい気持ちは強い。
- ・今後、更に気温上昇が続き、猛暑日が多くなるとしており、体調の管理、住居環境の整備が重要である。
- ・防災に対する意識が日々高まっているように感じる。ここ10年ほどで、大きな地震・水害・風害・異常気象が多く起こっていることを身をもって実感し、防災セットやローリングストック(災害に備え、食べ物や日用品を少し多めに購入、日常生活で消費すること)を家庭に用意している方が多くなったと思う。

2 2020年7月よりレジ袋の有料化が始まり、ご自身の生活の中で、環境に対する認識や取組に変化はありましたか？

- ・外出時のカバンには、常にエコバッグを入れておき、レジ袋は使わないようにして、最近では自然にエコバッグを使えるようになった。
- ・区商店街連合会等の推進により、マイバッグを使用する事により、少しでもプラスチック袋を使用しない方向性を進めるよう取り組んでいる。
- ・えどがわエコセンターでは、レジ袋の有料化を契機として、深刻化するプラスチックごみ問題に対して、区民一人ひとりができる取組を様々な機会を捉えて啓発している。クリーン作戦やプラごみの講演会、商店街連合会との連携事業でプラスチックごみの現状を知ってもらい、プラスチックごみを出さないことがどれ程重要かを理解してもらうとともに、レジ袋ではなくエコバッグ、ペットボトルではなく水筒を使うといったことをPRしている。
- ・家庭生活の中で小さいことではあるけれどあらゆる袋物(クリーニング袋・パンの袋・トイレトペーパーの袋など)をごみ袋として利用することになった。ごみ減量につながっている実感がある。
- ・実際レジ袋を買わずにマイ袋バッグを使っているが、家庭内で出るごみ処理には必要である。結局まとめ買いしたレジ袋を買うことには変わりはなく、疑問だらけであり、効果を考える毎日である。

3 現在、新型コロナウイルス感染症の拡大防止として、「レジ袋やプラスチック容器」が多く の 場 面 で 利 用 さ れ て い ま す 。 環 境 の 観 点 か ら 、 プ ラ ス チ ッ ク 製 品 は 削 減 し て い か な け れ ば な り ま せ ん が 、 ど の よ う に 感 じ て い ま す か ？

・コロナ禍では仕方ないことなのかと思うが、バイクなどにある手袋は消費量がとても多いように感じるので、どうにかならないものかと思う。

・やはり素材に問題があり、川や海での残骸等、生態系への影響が心配。

・レジ袋は事前に持参し、何度も使用するようになっている。プラスチック容器も必要以上に多く使われていると感じる。また空容器は資源ごみとして分別している。

・安くて軽量で加工も容易、薬品にも強く、密閉性も高く、水にも強い、優れた特性を持つプラスチックをなくすことは残念ながら不可能だと考える。しかし、できるだけ減らしていくことが重要である。上流と下流の取組が必要であるが、まずはペットボトルのポイ捨ては絶対にしないこと。次に、できるだけプラスチック製品ではないもの、代替品を選ぶこと。ごみの分別をしっかりとすることなどが消費者として求められていることで、上流の取組としては製品・流通・販売の場面での取組が必要である。企業の現実の取組をPRすることで消費者に選んでもらえることが重要である。

4 会社や地域において、環境対策(温暖化対策)として、近年取り組んでいることや改善したいことはありますか？

・紙の書類の削減に努めている。しかし、文書がすべてデータで送られてくるが、データなので作り手はA4サイズ1枚にすべての情報をわかりやすくまとめる意識を失っているように思う。

・幼稚園では子どもたちに節水・節電について説明し、絵本等を通して環境問題について意識できるようにしている。

・(学校)体育館水銀灯のLED化、牛乳パックのセルフリサイクル、エコキャップの回収、ペーパーレスの実現。

・物流に係わる者としてグリーン・エコプロジェクトに参加しCO₂の削減に寄与している。

(東京都トラック協会では、継続的なエコドライブ活動を推進・支援、CO₂排出量の削減や燃費向上に伴うコスト削減、事故防止等に向けた取組を展開している。東京都トラック協会ホームページより)

・会社にて節電・ごみの減量化、社用車のガソリンの節約に努めている。

5 最後に、地球温暖化対策を区民のみなさんに広く知ってもらうためには、どのような取組をするとよいと思いますか。

・実際にどのような災害が増えたか視覚的に訴える動画をどんどん配信すべきである。

・SNS、YouTubeの活用。但し、入り口の工夫が必要だと思う。また、「ここにはダメ。」の水害ハザードマップは娘たちも見ていた。インパクトの強い表紙の冊子は一家に一冊あれば見るのではないか。

・気候変動による風水害の深刻さをセミナー等で訴えていく。

・区民ニュースでは、温暖化対策について、多く取り上げられているが、見ている方は少ないように思う。身近な町会で、温暖化対策についての行事を行ってほしい。

1 江戸川区の取組について

- ・後世のために普段の努力の大切さがよくわかった。
- ・エコタウンエドがわ推進計画により区内の二酸化炭素排出量が年々、順調に減少していることは、行政の指導は基より区民一人ひとりが出来ることから行動を起こしているからだと思う。
- ・2008年に第1次エコタウンエドがわ推進計画を立ち上げ、2012年に目標達成は色々な対策に取り組んだ結果で、大きな成果であったと思う。2017年新たに策定、2018年から引き続き第2次推進計画が始まり、2030年の目標に向かい、前回以上の実効を望む。今は色々な時代の変化に戸惑わざるを得ない状況ではあるがSDGsの活動も含め、区民としても頑張りたい。
- ・江戸川区で色々な取組をしてこれほど削減していた事を知らなかった。確かに区内の二酸化炭素排出量の数値は減っているものの、企業や公的機関によるものが多いように思う。最も比重の高い「民生家庭」部門をどう減少させるかが、鍵、つまり私たち一人ひとりの意識、行動の変容が最重要課題だと改めて自覚した。
- ・温暖化の影響は各所に広がることから、気候変動適応センターの設置は素晴らしいことと捉えている。
- ・回覧などの配布物が多すぎる。各町会の掲示板だけで十分なものも多く、それを事前に整理するだけでも紙の削減に繋がる。
- ・江戸川区の取組であるウォータースポットの開設やソーラー充電スタンドの設置など、とても良いと思うので町中のあちこちに出来る限りの数を早急に増設してほしい。区役所にはあまり行かないので、一之江駅などの駅周辺や身近な公共施設等に増設してほしい。

2 アンケート調査の結果について

- ・江戸川区らしくNGOや商店街、企業等が一結して活動していく方向が見えて良かったと思う。
- ・多様な意見を拝見し、大変参考になった。エコセンターとしても推進会議の一員として皆様と力を合わせて次世代に美しい環境を残せるよう力を注いでいく。
- ・各設問に対し、皆様が同じ意識を持っていることを改めて実感できた。しかしながら、これをどのように広げていくのか、よく検討すべき事項であると再認識した。
- ・天災（地震・台風・集中豪雨）は防ぎようがない。我慢していれば良い事では無い。何か策はあるはずである。いつ起こるかわからない災害に対する心構えは常時考えなくてはならないと思う。国・都・区・我々、町会でも一体となり対策に取り組む必要がある。常に我々町会が安全安心を全うするよう心掛けが必要である。それには行政側の指導が何よりであると思う。最大で最良の方法を指導願いたい。我々、町会でも日頃より災害に対して日々話し合いの場をもつよう心掛けている。

・皆様、色々と考えて行動しているのが理解できた。プラスチックごみに対する意見も参考になった。温暖化による危機感も感じ取れた。このまま温暖化が進むと、江戸川区が水面下になってしまう日がいつか来ると感じている。江戸川区が先頭に立って、温暖化対策の実現を示していく事の重要性を理解した。

・近年、地球温暖化の影響と考えられる大型台風や集中豪雨など風水害や気温上昇に伴う熱中症、新型コロナウイルス感染症の拡大、また、大型震災等、皆、自分の身は自分で守ることが大事だと思っている。

・地球温暖化により大型台風、集中豪雨等は個人では対応できない。我々のすぐできる事（エアコンの温度を下げる、ごみの量を減少する等）を確実に実行していくことである。

・アンケートの調査結果について興味深く拝見した。一人ひとりの地球温暖化の影響について深く考え真剣に行動を起こす事は私たちの責任だと思う。小さい事からコツコツと始める事は改めて大事な事だと思った。

3 アンケート調査の結果を踏まえて区の環境施策に対し求めるもの

・新しい広報えどがわ（写真・イラスト）に好感をもって見ているので、今後、環境問題の一つひとつについても取り上げて（地球温暖化・ごみ減量など）今までとは違った目線でわかりやすい表現方法でお願いしたい。

・小学生～中学生への環境教育の更なる強化（ごみの分別、節電の意識（空調を使用せずに衣服で調整する））

・あらゆる分野での過剰包装の自粛の呼び掛け、徹底が必要。

4 エコタウンえどがわ推進本部会議の全体について

・いつものエコタウンえどがわ推進本部会議は、多くの人が集まるがセレモニー的な会議であり、啓蒙のための講習会だと感じる。一部の限られた方の発言はあるが、区側の一方的な資料提供や発言が殆どである。今回多くの方が色々な考えや意見があることがわかった。時間の制約はありますが、皆様の考え方や感じ方が表面に出てくるような仕組みができれば、もっと会議が盛り上がるのではないかと考える。

・コロナ禍ではこのような方法しかないと思う。知識不足なので、落ち着き次第、皆様より色々なお話を伺って勉強したいと思う。今や誰でも地球温暖化問題への関心は高いと思うので、区が推進している色々な運動をいかに多くの区民に広め、日常に浸透させるかが、最重要課題なのかなと感じた。

・大きな会議であり参加することに意義を感じ、勉強させてもらい、持ち帰り、地域に伝えるように務めている。SDGsについては一般の理解度が少ないと思う。自分も含めてより一層の勉強をする機会があったらよいと思っている。

第 17 回エコタウンえどがわ推進本部会議についてのご意見に対する区の方

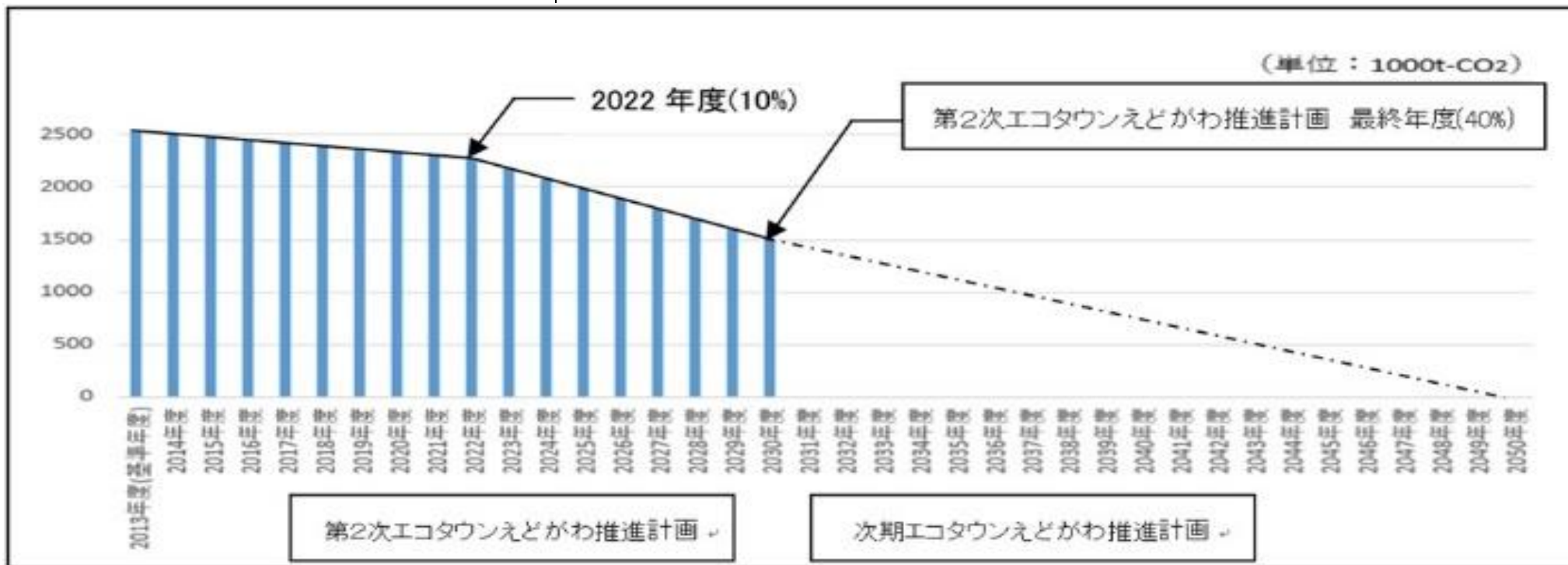
ご意見	区の方
江戸川区の二酸化炭素排出量について	
江戸川区の CO ₂ の排出量の 2016 年から 2017 年の一時的な増加の原因を世帯数の増加と厳冬によると分析していましたが、厳冬による増加が区外でもあったかどうかご説明いただきましたか。	<p>オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」「特別区の温室効果ガス排出量」のデータより、特別区の温室効果ガス排出量増減に関する分析の中で、「厳冬による暖房需要の増加」と推測されています。</p> <p>また、環境省においても、2017年度(平成29年度)の温室効果ガス排出量(確報値)について公表されており、家庭部門について、「前年度からの排出量の増加は、前年度に比べ全国的に冬の気温が低く、灯油、都市ガス等の消費に伴う排出量が増加したこと等」があげられています。</p>
江戸川区の環境施策について	
区民と一緒に取り組んでいる例はあるか。	<p>江戸川区では、「環境をよくする運動」を始め、地域のみなさんと協働しながら様々な環境問題に取り組んできました。エコタウンえどがわ推進計画では、認定NPO法人えどがわエコセンターが中心となり、区民や事業者のみなさんとともに「もったいない運動えどがわ(一人ひとりが環境への配慮を心がけ、日々の暮らしの中で身近な省エネなどに取り組む)」の普及や「エコカンパニーえどがわ(もったいない運動の事業所版)」を積極的に展開し、「参加」「削減」「転換」の3分野で温室効果ガスの削減に取り組んでいます。</p> <p>また、ごみの減量について3R「リデュース(発生抑制)・リユース(再利用)・リサイクル(再利用)」を推進し、「古着・古布リサイクル」や「子ども服☆ぼとんたっち」、食品ロスを減らす「えどがわ食べきり推進運動」や「フードドライブ」などを区民のみなさんと一緒に取り組んでいます。</p> <p>その他にも、えどがわエコセンターでは「地球温暖化防止対策」「資源循環型社会づくり」「自然環境保全」などテーマに沿った「エコアクション講座」の他、区民参加型の様々な講座・イベントを実施しています。</p>

第 17 回エコタウンえどがわ推進本部会議についてのご意見に対する区の考え方

ご意見	区の考え方
<p>江戸川区の環境施策について</p> <p>分別されたゴミの行方が知りたい。 清掃工場や処理センターの見学や、より具体的なリサイクルの流れを知る事で、個々がごみの減量に取り組む意識が変わると思う。</p>	<p>分別されたゴミの行方については、江戸川区ホームページ（下記 URL）にて掲載しております。</p> <p style="background-color: #e0e0e0;">江戸川区ホームページトップ→暮らし・手続き→ごみ・リサイクル→啓発活動→キッズコーナー→えどがわくのごみダイエットにチャレンジ</p> <p style="background-color: #e0e0e0;">https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e025/kurashi/gomi_recycle/fukyu/kidscorner/challenge.html</p> <p>江戸川区ホームページトップ→暮らし・手続き→ごみ・リサイクル→啓発活動→キッズコーナー→清掃・リサイクルに関する小学生から寄せられた質問→1, ごみと資源の出し方について にも下記のとおり掲載があります。</p> <p>【質問 11：収集されたごみや資源は、どうなるの？】</p> <p>回答 11：燃やすごみは、清掃工場に運び、燃やします。残った灰は埋立処分場に埋め立てします。燃やさないごみは、不燃ごみ処理センターに運び、細かくくだき、アルミと鉄を取りのぞきます。残ったごみは最終処分場に運び、埋め立てします。</p> <p>粗大ごみは、粗大ごみ破碎処理施設に運びます。燃やすものと燃やさないものに分け、それぞれ細かくくだいたあと鉄を回収します。残った燃やすごみは清掃工場で燃やし、ガラスなどの燃やさないごみは埋立処分場に埋め立てします。</p> <p>資源である古紙・びん・缶・ペットボトル、容器包装プラスチックは、それぞれ種類別に一次処理施設に運びます。混ざっているごみを取り除いた後、まとめてリサイクル施設に運び、原料として再生します。</p> <p>なお、見学会については、リサイクル施設や中央防波堤埋立処分場のバス見学会を実施しています。</p>

第17回エコタウンえどがわ推進本部会議についてのご意見に対する区の方

ご意見	区の方
第2次エコタウンえどがわ推進計画について	
第2次エコタウンえどがわ推進計画の温室効果ガス排出量の削減目標については、早急に見直しが必要であり、先進的な取組に掲げられている事項の具体化が求められていると考える。	第2次エコタウン推進計画の策定におきましては、当時から国や都の削減目標を上回る2030年度40%としています。これは、昨年、国が示した2050年度実質ゼロ表明の流れに沿ったものとなっています。今月2日に地球温暖化対策法の改正が閣議決定され、再生可能エネルギーの導入推進が強く求められています。これはエコタウン推進計画の先進的な取組の中でRE100に向けた取組として掲げられております。この第2次計画の2030年度目標をしっかりと達成し、ゼロカーボンに向け次期エコタウンえどがわ推進計画へ継承したいと考えています。



第 17 回エコタウンえどがわ推進本部会議についてのご意見に対する区の方

ご意見	区の方
<p>気候変動適応センターについて</p> <p>気候変動適応センターの具体的な取組がよくわからないので、詳しい説明が欲しい。</p> <p>江戸川区の気候変動適応センターについてももう少し詳しく知りたい。</p>	<p>地球温暖化対策には、二酸化炭素など温室効果ガスの排出を削減し、温暖化を和らげる「緩和策」と、温暖化により気温上昇・集中豪雨・農作物への影響など気候変動に伴う様々な問題に対応していくための「適応策」があります。</p> <p>「緩和策」については、これまで「エコタウンえどがわ推進計画」を策定し、もったいない運動など省エネの推進や改築校での太陽光パネル設置など再生可能エネルギーの利用拡大に取り組んできました。</p> <p>一方で、近年、気候変動に伴う様々な影響の一つの大きな例として、大規模災害が挙げられます。本区は水と緑豊かな環境である反面、大規模な水害のリスクも抱えています。こうしたリスクの回避・軽減を図ることにより、被害を最小限に抑え、気候変動がもたらす影響について適切に対応していくために「江戸川区気候変動適応センター」を設置することとしました。</p> <p>気候変動適応センターには、副区長を本部長として、区役所全部局の部長で構成する気候変動適応本部を設置します。また、気候変動適応センターの役割として、国の国立環境研究所や東京都の環境科学研究所など専門的な機関とも連携しながら、気候変動影響及び気候変動適応に関する情報の収集、整理、分析等を行い、そうした情報を区民や事業者のみなさんへ発信、提供することで、区民や事業者のみなさんとともに江戸川区の実情に合った気候変動対策を進めていきます。</p>

江戸川区の「令和3年度当初予算案の編成について」(1, SDGsの推進(共生社会の実現)、2, 脱炭素への取組、3, デジタルトランスフォーメーションの推進)、及び「江戸川区気候変動適応センターについて」、東京電力パワーグリッド株式会社、東京ガス株式会社より、アドバイザーとしての知見から、ご意見・ご感想・ご助言をいただきました。

1 東京電力パワーグリッド株式会社より

地球温暖化の影響と思われる気候変動が世界的に進む中、企業・団体等に対しても脱炭素社会の実現に向けた具体的対策が求められております。エネルギー事業者である東京電力グループも、具体的な指針として「2030年度までにCO₂排出量を2013年度比で半減」という目標を掲げ、グループ全体で取り組んでおります。

脱炭素社会を実現するためには、再生可能エネルギーの拡大や、高効率機器(空気でお湯を沸かすヒートポンプ給湯器やLED照明等)の導入によるエネルギー消費の低減の推進が有効と言われています。また、日本国内のCO₂排出量の約2割を占める運輸部門におけるCO₂排出量削減方策として車両の電動化が期待されており、EV100加盟企業として、業務車両のEV(電気自動車)化および充電設備導入・推進を進め、東京電力パワーグリッド江東支社本館では令和2年度末現在で42%(19台/45台中)のEV化が達成され、来年度には50%を超える予定となっております。また、約50台分の駐車スペースがすべて充電できるようになっており、今後もCO₂削減に貢献して参ります。

EVは、再生可能エネルギー(太陽光発電所などから生まれた電気)を余すことなく活用する事を目的として、電気が余っているときにEVに充電し、電気が足りない時にEVから電気を取り出すことで、経済的にもエネルギーの有効活用が可能となります。また、災害時にも充電した電気を利用することが出来ることから、地域の人々の生活を守る、災害に強いまちづくりへの貢献にもつながります。

車両の電動化に向け取り組んでいくことは、災害等の社会的課題を解決することや、SDGsへの様々な課題解決にも繋がっていくことと考えております。

もちろん、地球温暖化防止対策・脱炭素社会の構築には、「企業として」だけではなく、「個人」として理解し、考え、行動することが大切だと思います。まずは小さなことでもできることから取り組み、また、皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

2 東京ガス株式会社より

SDGsの推進(共生社会の実現)について

弊社グループでは、事業活動を通じて社会課題の解決に取り組むことで、社会の持続的発展に貢献することを目指して取り組んでいます。えどがわエコセンター事業活動に弊社の環境教育出前授業に加え、2020 年度はコロナ禍で開催が見送られましたが、弊社の「がすてなーにガスの科学館へSDGsを学びに行こう！」講座も盛り込んでいただきました。また弊社の障がい者スポーツ支援、共生社会の実現に向けた活動として昨年度、オリパラ推進課と協働で東京 2020 大会1年前イベントに参画し、今後も事業活動を通じて社会課題の解決に取り組むことで、社会の持続的発展に貢献していきます。

脱炭素に向けた取り組みについて

今や気候変動は、持続可能なグローバル経済の発展における最重要リスクの一つとされ、弊社もグループ一体となって取り組んでいます。また、国の 2050 年脱炭素社会実現の潮流が加速していく中、弊社としてはCO₂ネット・ゼロの実現に向けて、今後もCO₂排出係数の低い天然ガスの普及拡大、また一つに家庭用燃料電池エネファームの普及拡大による二酸化炭素削減に貢献していきます。江戸川区における「2030 年まで温室効果ガス 40%削減目標」の達成には、区の二酸化炭素排出量の4割以上を占める民生家庭部門の削減が不可欠と認識しております。国は 2030 年までに 530 万台のエネファーム普及を目指しており、1台あたり年間で約1t以上の二酸化炭素削減効果があり期待されています。現在、江戸川区は戸建の約3%程度の普及、今後も普及拡大の余地が大きいと認識しております。また台風等による大規模停電発生時の電源としても実績があり、今後もエネファーム普及拡大に取り組んでいきます。